

ふくしま

再生 短信

農を支える暗渠

松塚土壌博物館暗渠工事同行記



【背景写真】博物館側から見た暗渠工事現場、粗朶（そだ）の投入が始まった。【各写真】1. 暗渠に埋め込まれた素焼きの土管。2.土管を粗朶で覆いその上に掻き出した土を埋め戻す。3.博物館前：暗渠工事「総監督」山田猛史さん（右）と博物館「館長」溝口勝さん。4.ユンボ名人が活躍。5.館内工事は溝口研チームが手作業で。6.比曾の暗渠づくり（動画アーカイブへ）。

2018年4月28～29日、松塚土壌博物館の排水のための暗渠敷設工事を担う再生の会チームに記者は同行した。元来暗渠は農地の地下深く敷設されその排水効果は、1) 地耐力（土壌の強度）が増し大型機械の作業が容易に 2) 地下水位の低下で通気性が増し微生物が活性化し 3) 作物の根が深くなり、全体として作物の生育が改善する（溝口研資料より）。今回敷設した暗渠は土壌博物館の展示の一部でもある。工事は博物館を取り巻く山田牧場主人・猛史さんの指導の下で素焼きの土管と粗朶（葉のついた木の枝）を使う伝統的工法で実施された。

折しも比曾では元村会議員・菅野義人さんが暗渠づくりに取り組んでいた。「除染作業で重機に押しつぶされた暗渠を自力で再度作り、水はけを良くしなければ、畑に牧草を蒔くことは出来ない。国はこの作業を支援しない、自力でやるしかない」と、義人さんは話していた」（2018.4.14田尾陽一さん記録：動画6）。暗渠は農を支える底力だ。（文責&背景写真と1～5撮影・若林一平）

誕生！不死鳥の如く

2018 6 / 5 第 4 2 号

ふくしま 再生 短信

5/26-27 菅野宗夫田圃田植 & 前夜大パーティー



【写真】(5/26) 1. 細田工務店社長・阿部憲一さん(右)と田尾さん(中央)。2. SGRAの若者たちが調理した世界の美味。3. 村議・佐藤健太さんの挨拶。(5/27) 4. 田植指導は大久保金一さん。5. 誠に凛々しい次男さん。6. 喝采！次男さんの熱唱。背景：田植全景。

八年目の真実

2018年5月26日午後6時半より霊山センターで、ふくしま再生の会(理事長田尾陽一さん、主たる事務所・飯館

い・飯館村荒商店。大パーティーには、伊達・相馬・飯館の地域の方々10名をはじめ、渥美財団SGRAの国際色豊かな12名、CBすぎなみ8名、富士通SSL8名、さらに劇作家・谷賢一さんと劇団員のみなさん、劇作家・モスクワカヌさんら、再生の会の会員を加え総勢70名が参加し空前の盛会となる。宗夫さん「全てを失い前向きなチャレンジを学んだ。福島だけの事故でない。世界の皆が主役、村民と一緒にやってきてこんな幸せはありません」。翌日の田植えは晴



酒米田圃

今年は昨年より面積を拡大。宗夫さんの下に「不死鳥の如く」誕生の立役者が勢揃い。【写真】右から飯館銘酒の提唱者・溝口勝さん、菅野宗夫さん、酒造りの先達・二宮克彦さん、ラベル意匠・三上可さん。

村佐須滑)は田植前夜の大パーティーを開催。冒頭菅野宗夫さん(佐須地区長・飯館村農業委員会会長・当会副理事長)がピッ



グな知らせを披露(中央写真)。純米酒「不死鳥の如く」の誕生である。原料米は昨秋佐須宗夫田圃から収穫した「夢の香」、醸造元は大和川酒造店(福島県喜多方市・佐藤彌右衛門会長)、販売扱

天に恵まれて金一師匠の指導よろしく午前中に恙無く全作業を終えた。美酒(右写真)の感動を胸に一同足取りも軽く家路についた。(文責&撮影・若林一平)



ふくしま 再生 短信

飯館の夏2018



【写真上】山田猛史牧場の牛たち、血統正しい飯館牛である。

2018年7月28日、飯館村松塚の山田猛史牧場では18頭の肉牛が草を食んでいる。昨年始まった

放牧が2年目を迎えた。猛史さんによると牛舎での飼育が普通の乳牛と違って広い牧場での飼育により肉牛の肉質が格段に向上するのだという。シャキシヤキという牧草を咀嚼する力強い音が頼もしい(写真1・2)。夏は向日葵の季節、佐須の

阿部さんの御宅は海外の写真家が訪ねる絶景だ(写真3)。29日宗夫さんは、事業用ハウスでの地力増進のための緑肥作物スーダングラスの刈り入れを前に「農業の再生はまず農地の再生が基本」と言う(写真4)。帰途隣のハウスのピー太郎を一同の土産に頂いた(写真5)。(文責&撮影・若林一平)



ふくしま 再生 短信

7 / 29 健康・医療ケアチーム同行記



アーカイブ

記録・共感・健康



【写真説明】1～3. 動画アーカイブを鑑賞する村民の皆さん。4. 内科医・相澤力さんの健康講話「熱中症」。5. 村内で開業中「いいたてカイロ（整体）」の石井新市・美智子夫妻（青服）。6. 管理栄養士・青山真弓さんレシピの昼食風景。7. 会場に美の潤い、フットケア・松田純子さんの生花。【背景写真】フットケア施術中の若狭実枝子さん（手前）、八木優子さん（奥）。

2018年7月29日午前10時半から佐須公民館（旧佐須小）でふくしま再生の会「健康・医療ケアチーム」（チームリーダー・中町美佐子さん）は、佐須行政長・菅野宗夫さんと佐須老人クラブ（会長・菅野永徳さん）との共催により第9回久しぶりに集まってみんなで楽しく過しましょうを主催した。午前部のでアーカイブプロジェクトチーム作成の動画記録＜ふくしま再生の会活動記録2011-2017～村民の言葉から振り返る～＞が上映された。

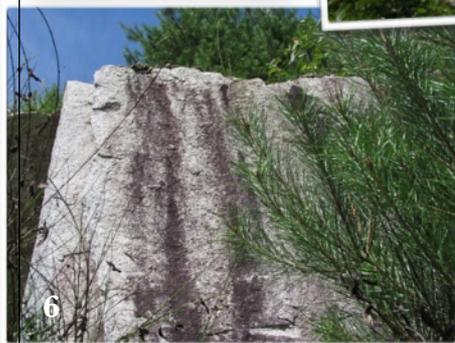
会場から「再生の会の努力に感謝、村の良いところを輝かせていければ再生できる」（村の人）「明るいイメージを発信したい、我が家を核にしてくれ感謝で一杯」（宗夫さん）「自分達の問題として取り組んできた」（田尾さん）。昼食後、恒例の健康講話のあとく足湯・爪切り・フットケア・心配悩み相談などの個別ケアが和やかに行われた。（文責&撮影・若林一平）



7

ふくしま 再生 短信

2018 / 8 / 19 御影石・石切り場見学



✕ 石は歌い舞う ✕

2018年8月19日午前、飯館村民・田尾陽一さんの案内で御影石の石切り場を見学。佐須から車で20分程、白石の交差点を通過して399号線を飯樋方面へ、花塚山遊歩道の案内板を入り、石切り場に到着。見る者を圧倒する全景(写真1~3)に目を奪われる。



野外大劇場

石切り場前の広場から太平洋方向(福島第1)を望む。

更に近づいてみると切り出し跡が期せずして美事なく自然の造形美を醸している(写真4~7)。悠久の岩山群の景観に圧倒される(写真8と9)一方、嘗て万感の想いで飯館村に辿り着いた人びとの足跡を遠望できる(写真10)。「○黒雲母花崗閃緑岩 当村の大部分を構成するもので、これも一般に(角閃花崗閃緑岩と並んで)「みかげ石」とよばれている。」(岩崎敏夫監修『飯館村史 通史』、23頁)飯館村の石材店は10社を越す。(文責&撮影・若林一平)